

# まちに広がる

# 花と緑と人の

花の美しさや緑の大切さを感じるものにしよう。そんな取り組みは、花と緑を生かしたまち



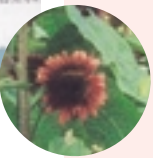
玄関先に花のプランターが幾つも並べられている。こんな光景をあちらこちらで見ることができます

づくり活動コンテストに参加。その助成金で、七十基のプランターと花の苗を整備しました。会員たちは、それらの花を育てるほか、自宅の庭や玄関にも道路路から見えるように花を並べて、街並みを花で飾っていきました。

その結果、会員と同じように庭や玄関に花を飾る家庭が、地域が増えていったそうです。また、この取り組みには思いがけない効果もありました。犬のふんやごみのポイ捨てが少なくなり、まちの環境美化にもつながったんですよ」と、菅谷さんは胸を張ります。



まちづくり活動コンテストで発表する菅谷さん  
▶ 昨年咲いた赤いひまわり



昨年、地域の特色づくりにと、赤いひまわりの栽培に挑戦しました。しかし、大きく育たなかったり、咲いた花の色が想像していたものと違っていたりと、ちよつと残念な結果になったとか。昨年咲いた花から採れた種は、希望する家庭に配られ、今年も挑戦が続いています。

自分たちの手で育てた花から種を採り、再びまちに花を咲かせる。それも、より多く。これと同じように、まちを思う気持ちが、次々と受け継がれているようです。

**子どもも大人も花と笑顔に囲まれて**

六月十三日、白楊はくよう小学校六年生の児童たちと地域の人たちが、歩道の升花壇に花を植えました。きつかけは、昨年、児童たちが授業の中で、自分たちのまちについて調べたことです。

児童たちがまちを歩いてみると、北二十四条地区には花が少ないことに気付きました。早速、区役所に花を増やしてほしいと頼んでみることに。そこで、区が地域の緑を増やす取り組みをしていることを知った児童たちの間に、「私たちも一緒にやってみよう」という思いがいつしか生まれてきました。

そして今年、子どもたちの思いは現実のものとなりました。「去年、私たちが考えたことから、こうやって花を一緒に植える作業ができるようになったってうれしかったです」と、児童の一人、大久保陽子おおくほ しょうこ



「土はやさしく固めてね。」花の植え方を教えてもらい、地域の人との交流も深まりました  
◀ きれいなお花に思わずっこり

さんは話してくれました。子どもも一緒にまちづくりに参加していく。児童たちの小さな願いから始まったこの取り組みから、まちづくりの新しい可能性が見つかったような気がします。

花や緑が多いまち。そこに住む人々は、ゆとりや安らぎを感じ、生き生きと暮らすことができるでしょう。

花を愛する、緑や自然を大切に。そんな思いから、まちへの愛着が生まれ、住みよいまちをつくっていくのではないのでしょうか。

